

企業グループ労協の現状と課題

[研究メンバー]

主査	奥田健二	上智大学教授
	佐藤博樹	法政大学助教授
	尾崎憲治	東海大学講師
	南雲光男	商業労連事務局長
	草野忠義	自動車総連事務局長
	村杉靖男	味の素労組委員長
	山原拓治	日経連労政部長
	伊藤圭一	通工連事務局長
	白石利政	労調協常務
	岩崎 馨	産研センター事務局長
	稲垣武晴	産研センター専任研究員

[報告書目次]

- 第 1 章 総論
- 第 2 章 企業グループ労協の現状と課題
- 第 3 章 事例研究
 - (1) A グループ
 - (2) B 電機
 - (3) C 金属
 - (4) D 電気
 - (5) E 化学
 - (6) F 自動車
 - (7) NTT
- 第 4 章 企業グループ労協・労連の組織と活動実態に関するアンケート調査
(調査票及び集計結果)

[内容要旨]

産業の構造は目まぐるしく変化を続けているが、産業構造の変化に対応する個々の企業の柔軟性の度合いは、わが国の場合顕著に高いとあってよい。このため企業活動の多角化、あるいは分社化、さらには企業グループのネットワーク的運営等々、企業は広範なそして多様な対応策を展開してきている。このような企業のグループ化に対応して、最近、企業グループ労組連合あるい

は協議の問題がクローズアップされてきている。そこで、企業グループ労協・労連の現状について調査検討を行うこととした。本研究は代表的な企業グループ労組協議会 7 例について事例調査を行い、さらに 1,000 組台に対するアンケート調査結果を分析解明したものである。

- 1 広域人事管理に伴って、出向者や転籍者の人事処遇上の不利益を避け、より有利な条件の確保等々、組合の関与すべき問題領域が広がってくる。このため、例えば「社員の出向に関する協定」等をほとんどの組合が経営側と締結している。このように、協定書の作成等の形は整備されてきているし、このように形式を整えてゆくことが最小限必要なことは言うまでもないが、しかし現実には未解決な困難な問題が多く残されているようである。
- 2 当初は関連企業労組間の懇親、情報交換のためという、ルーズな関係から出発したグループ労協においても、春闘時の賃金問題に直面し、諸情報を交換する間に、次第に労働組合としての学習を進め、グループ労協の性格は変貌を遂げつつあるとあってよいのではないだろうか。特に福利厚生面での条件の均等、整備等を手がけるとすると少なくともこれらの事項について経営側に対して要求を行い、交渉を行うという機能を持ち始めざるを得ないわけであり、グループ労協として次第に成熟してゆくものと考えられる。
- 3 現在の時点において、グループ労協の果たしている機能の主なもの、メンバー組合に対する関連情報の提供、またアドバイスの提供といった活動である。この関連情報の範囲は極めて広範であるが、企業グループとしての経営状況、経営戦略の動向等についての情報も重視されている。そしてグループ労協として今後一層重点を置きたい活動としては、グループ経営について発言してゆきたいとしている。
- 4 グループ労協が重点を置いている活動で、これまで触れてこなかったものは、各種の部会活動である。もともと多様な異業種に属する企業の集団である企業グループであるゆえに、グループ労協としての活動は画一的であり得ないのであり、したがって業種ごとの部会活動に重点が置かれている。